

令和6年度学校評価 結果

|                 |                            |                                                                         |                                                                                                                   |                                                                                                                                           |         |                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校名             |                            | 佐賀大学教育学部附属幼稚園                                                           |                                                                                                                   |                                                                                                                                           |         |                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 1 教育目標          |                            | 身近な環境に自らかかわり、遊びを創り出す力を育てる<br>①健康な心と体を育む<br>②豊かな感性や探求心を育む<br>③主体性や創造性を育む |                                                                                                                   |                                                                                                                                           |         |                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 2 めざす幼児像        |                            | 生き生きと自ら生活する子<br>①すこやかでがんばる子<br>②豊かに感じ取れる子<br>③自分で考えを創りだす子               |                                                                                                                   |                                                                                                                                           |         |                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 3 今年度の重点目標      |                            | ①幼児が主体的に環境に関わる力の育成<br>②安心して園生活づくりによる心の安定<br>③効果的な教育活動実践の保障をめざす働き方改革の推進  |                                                                                                                   |                                                                                                                                           |         |                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 4 重点目標          |                            |                                                                         |                                                                                                                   |                                                                                                                                           |         |                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 評価項目            |                            | 取組内容                                                                    | 成果指標                                                                                                              | 具体的取組(評価項目)                                                                                                                               | 達成度(評価) | 最終評価<br>実施結果<br>評価                                                                                                                                                                                                                                   |
| ○保育の充実          | ○楽しく幼稚園に登園する子どもの育成         |                                                                         | 「子どもは幼稚園に行くのを喜んでいる」と回答した保護者90%以上                                                                                  | ・保育者も子どもと一緒に遊んだり、困ったときは一緒に考えたりし安心感を得られるように努める。<br>・子ども達の日々の園生活の様子を記録し、幼児理解に努め、翌日の保育に生かす。<br>・定期的な支援会議(カンファレンス)を行い、園全体で園児の情報を共有し、支援体制を整える。 | A       | ・90%以上の保護者が「子どもは幼稚園に行くのを喜んでいる」と回答した。<br>・子ども達が安心して登園できるように職朝でクラスの活動や気になる子への対応を共通理解し、全職員で共通認識の基、保育にあたった。また、子ども達が主体的に遊びを創り出せるように環境構成や保育者の関わり方についても見直しを図った。<br>・定期的な支援会議に加え、週案に配慮が必要な幼児についての記入欄を新たに設け、幼児理解に努めた。                                         |
|                 | ○遊びに没頭する子どもの育成             |                                                                         | 「やりたいことを見つけ遊びを楽しんでいる」と回答した保護者90%以上                                                                                | ・前日の遊びや子ども達の姿を受けて、翌日の遊びが充実するように物を準備したり、場を整えたりして環境構成に努める。<br>・職朝で前日の保育の様子や当日の保育の見通しを伝え合い、共通理解を図る。                                          | B       | ・90%以上の保護者が「子どもはやりたいことを見つけ遊びを楽しんでいる」と回答した。<br>・職朝で前日の保育の様子と当日予想される遊び、予定している活動を共有したことで、「職員全体で子ども達を見ていこう」という意識が高まった。しかし、遊びに没頭していない子も見受けられたので、週案に前週の子どもの姿から予想される遊びや準備する物を具体的に記し、よりねらいや意図を明らかにしながら環境構成を行っていきたい。                                          |
|                 | ○園内研究の充実                   |                                                                         | 「園は、園内研究の充実を図っている」と回答した職員90%以上                                                                                    | ・ミニ研修会等を通して、教師の感性を磨き、園全体の保育の質を高める。<br>・大学や行政機関と連携し、共同研究者と保育の実践や幼児理解等について話し合う。                                                             | B       | ・90%以上の職員が、「園内研究の充実を図っている」と回答した。<br>・保育者全員でミニ研修を週1回行うことにより、研究のテーマである「遊び込む」ことについて考え、保育の質の向上に努めた。大学の先生に研究に入ってもらうことで、保育や研究についての新たな視点や気づきを得ることができた。しかし、研究を進めるにあたり環境構成や保育計画などに課題が見えてきた。今後、カリキュラムを見直しながら、研究を進めていきたい。                                       |
| ○健康・安全指導・管理     | ○子どもの病気・けが・事故等の防止          |                                                                         | 「園は、保育室や園庭など、園内の環境整備を行っている」と回答した保護者90%以上                                                                          | ・危機管理マニュアルの策定を行う。<br>・全職員で危険箇所等の情報を共有し、環境を整備する。<br>・保育室及び園庭の環境整備に努める。                                                                     | A       | ・90%以上の保護者が、園は、保育室や園庭など、園内の環境整備を行っている」と回答した。<br>・危機管理マニュアルを全職員で共有し、各自ですぐに確認できるようにファイリングしたことで、職員一人一人の危機管理意識の向上を図った。<br>・月に一度の安全点検により、危険箇所が見つかった場合には早急に対応した。<br>・月に一度の安全点検のみならず、毎日の保育の中で環境整備に対して気づきがあった場合には必ず共通理解をして対策していく必要がある。                       |
|                 | ○教職員・幼児の安全対応能力の向上          |                                                                         | 「園は健康に関する話や避難訓練など、健康・安全に生活する力を育む機会を設けている」と回答した保護者90%以上                                                            | ・衣服の調整や歯磨き・手洗いの大切さ、遊具の使い方等を子ども達に伝える機会を設ける。<br>・警察や消防署と連携した避難訓練を実施する。                                                                      | A       | ・90%以上の保護者が「園は健康に関する話や避難訓練など、健康・安全に生活する力を育む機会を設けている」と回答した。<br>・衣服の調整がしやすい服で登園するよう保護者へ伝え、子ども達が自分で脱ぎ着できるよう促した。<br>・歯磨きや手洗いの仕方について、保育の中で大切さを伝え、養護教諭が各クラスで歯磨きの話をするなどの機会を設けた。<br>・遊具の使い方について年度初めに保護者・子ども達に説明を行った。<br>・避難訓練の際には警察や消防署からアドバイスをもらい、安全管理に努めた。 |
| ○豊かな心           | ○互いに気持ちよく生活できる環境づくり        |                                                                         | 周囲の人(友達や家族等)に自分の気持ちや思っていること(したい・してほしくない等)を言葉や行動等で自己表出している」「友達の思っていることに気付こうとしたり、考えながら行動しようとしていたりしている」と回答した保護者90%以上 | ・自分の思いが通らなかった時などは、子どもの思いや考えを受け止め、子どもと保育者でどのようにしたらよいのか考え、子ども同士で伝え合えるよう援助する。                                                                | A       | ・成果指標2項目において、90%以上の保護者があてはまると回答した。<br>・保育の中で子ども達がありのままの気持ちを言動で表せるように、保育者が肯定的なかかわりに努めた。また、言葉にできない気持ちを保育者が代弁し、友達と気持ちを伝え合い「折り合いをつける機会を設けた。そのことで、互いに気持ちよく生活できる環境作りにつながった。                                                                                |
| ○幼・小連携          | 幼児教育から小学校教育への学びの連続性を意識した保育 |                                                                         | 「附属小学校との交流に取り組んでいる」と回答する職員90%以上                                                                                   | ・保育・授業参観等を行い、育ちと学びの共通理解を図る。<br>・保育・授業参観や幼小連絡会等で意見交換を行い、子どもの実態とめざす子ども像を共有する。<br>・交流活動の事前の打ち合わせを行い、活動のねらいを明確にする。また、次の交流に生かせるように、事後の振り返りを行う。 | B       | ・90%の職員が「園は、附属小学校との交流に取り組んでいる」と回答した。<br>・年間2回幼小連絡会を行い、幼稚園生活での育ちを伝えたり、小学校進学後の様子を聞いたりして子どもの実態を共有することができ、小学校教育への滑らかな接続へと繋がった。<br>・小学校の運動会練習の見学や学校体験を行う際は、事前に打ち合わせを行うことで、活動のねらいを意識しながら活動することができた。今後は小学校と振り返りまで行い、そこで出た課題や反省を次年度に繋げていきたい。                 |
| ○業務改善・教職員の働き方改革 | ○行事や教育活動等の精選や見直し           |                                                                         | 「行事等の適正化が進んだと感じている」と回答した職員90%以上                                                                                   | ・昨年度の行事等の振り返りやねらいを確かめながら、職員会議等で内容等の見直しについて話し合う。                                                                                           | B       | ・90%の職員が「行事等の適正化が進んだ」と回答した。<br>・昨年度の活動の振り返りや子ども達の実態を基に行事の改善を図った。行事等の開催時期や実施学年の検討を行った。見直したことでよりねらいに近づくことができ、実りある活動へつなげることができた。しかし、今ある行事のみへ目を向けていたことは課題だと考える。今後は、今ある行事に対する精選だけではなく、カリキュラムの見直しを図り、新たな活動を取り入れることも視野に入れて見直しを図っていきたい。                      |
|                 | ○ICTを活用した業務の効率化            |                                                                         | 「園支援システムの導入により、メリットを感じている」と回答した職員100%                                                                             | ・園支援システムの操作方法を共有し、活用する。                                                                                                                   | A       | ・100%の職員が「園支援システム」の導入により、メリットを感じている」と回答した。<br>・子ども達の欠席・遅刻を保護者が園支援システムで連絡することによりそのデータを月末統計に反映されるので、業務の効率を図ることができた。<br>・全体的に昨年度より遅刻や早退、預かり利用の追加に関する操作がスムーズにできるようになった。<br>・保護者への緊急連絡・お便りの送付等、積極的に「園支援システム」を活用した。降園時にお便り等を配布する必要がないので、保育に専念することができた。     |